vinetur

スペイン、天水栽培のワイン用ブドウ収量見通しを下方修正

農業省の秋の初回推計では、天水栽培のブドウ畑は2025年比14％増、灌漑栽培は2％減とされた

2026年11月10日（火）



スペイン農業省は11月9日（月）、最新の現地調査による推計で、天水栽培のワイン用ブドウの平均収量が従来の予想ほど増えない一方、灌漑栽培では2025年の水準をわずかに下回っていると発表した。

今回の更新は、作付面積・収量調査（スペイン語の略称はEsyrce）によるもの。9月のデータに基づくブドウ畑の第3次収量推計は、初の秋季評価とされ、天水栽培のワイン用ブドウの平均収量を1ヘクタール当たり5,379キログラムとした。2025年を14％上回る水準だ。

同じ推計によると、灌漑栽培の平均収量は1ヘクタール当たり8,886キログラムで、2025年の数値

を2%下回った。

農業省によると、9月のデータに基づく推計は、これまでの予測よりも実際の圃場の状況に近い。シーズン後半の評価となるため、作物の最終的な出来をより見通しやすくなる点が重要だ。

今回の数値は、スペインの主要な2つのブドウ栽培方式で状況が分かれていることを示している。天水栽培は前年を上回る見通しを保っているものの、増加幅は従来の推計より小さい。一方、灌漑栽培は2025年をわずかに下回る見通しとなった。

こうした数値は、収穫と生産の最終データが確定する前に、ブドウの供給見通しを左右するため、ワイン業界にとって重要だ。天水栽培の収穫増は市場の一部で供給圧力を和らげる可能性がある一方、灌漑栽培の収量減は、別の地域や市場でその効果を弱める可能性がある。ワイナリー、協同組合、バルクワイン取引業者にとって、両者のバランスは今後数カ月の購入、在庫、価格の計画に影響しうる。

大規模な収穫量の変動は、国内のワイン醸造だけでなく、バルクワイン取引を含む輸出の流れにも影響するため、スペインでは特に重要だ。収量見通しの修正を受け、買い手と売り手はブドウのコストやワイン供給に関する想定を見直す可能性がある。ただし、最終的な商業面への影響は、地域ごとの結果や品質、実際にワイナリーへ運ばれる果実の量によって決まる。

Esyrceの推計は最終的な生産データに取って代わるものではないが、収穫シーズンの全容がまだ見えない段階で全国的な基準を示すため、注目されている。今回の9月時点の推計は、スペインの天水栽培ブドウ畑が2025年を上回る年となる見通しは維持しつつ、その上振れ幅は従来の予想より小さいことを示唆している。一方、灌漑栽培は前年をわずかに下回る水準で推移している。

今回の発表は、2026年の収穫規模について、より明確な見通しを求めてきた市場に新たな判断材料を加える。天水栽培の収量は1ヘクタール当たり5,379キログラム、灌漑栽培は同8,886キログラムと推計されており、農業省の最新調査は、シーズンが最終的な集計段階に入るなか、生産者や取引業者にブドウ畑の状況をより新しい形で伝えている。